



August Newsletter College for International Co-operation and Development



Dear friends and future volunteers!

世界の食糧生産には、とても大きなものです。そして、資金があるところにおいては、それをとても効率的に生産することができます。

そのような中で、いまだにとっても多くの人々が十分な食物を得ることができないのはどうしてでしょうか？自然災害と戦争による被害を受ける人々の他に、毎日を飢餓と隣り合わせで生きている 8 億 5,000 万人の人々がいます。

この現実に対して、何が成されたのでしょうか？私達はこの不合理な状況を変えるために、何かをすることができるのでしょうか？

今回のニュースレターでは、食糧生産を中心にとりあげず。また、CICD からは、2008 年 3 月チームに参加し、この 9 月に北部モザンビーク Teacher Training College (教員養成学校) のプロジェクトへと派遣されるイスティヴァンの事前研修についての記事を紹介します。

その他にも、ガイアチームのサバイバル・トリップについても少しだけ触れています。どうぞお楽しみ下さい。

今日の世界における飢餓と食糧生産

現代の状況

国連の調査によると、世界の8億5,000万人の人々が飢餓に苦しんでいると報告されています。彼らは体重不足で、十分に食べるものを手に入れていません。また、他の20億人の人々は、ビタミンA、ビタミンC / ビタミンB3 / ミネラルの不足によって、栄養失調に苦しんでいます。

国連のミレニアム開発目標では、飢餓に苦しむ人々の数を減少することを、最初の目標として掲げています。2015年までに50% (約4億人) 減少しなければなりません。

中国とブラジルのようないくつかの国では、この目標に達成することが可能だと言われています。しかし、そのような中でも、世界中の深刻な栄養失調に苦しんでいる人々の数は、増加現象にあります。そのうち、アフリカでは2億1,000万人の人々が、インドでは2億2,000万人の人々が今もなお飢餓に苦しんでいます。

食糧生産の世界的システム

世界の食糧生産は20世紀において大きく変化しました。これには、産業技術が発達し、近代的な方法が特に先進国において適用されたためです。

先進国のより大きな農場では、非常に発達したために、場合によっては遺伝子が組みかえられた種や、高価な器材、肥料、灌漑と農薬を使用することで収穫を獲得します。

また、これらの多くは、農民が生産したものの多くを購入する、少数のとても大きな産業の食品会社によって生産されます。これらの食品会社は、全体的に食糧生産と必需品をコントロールします。



産業農業方法は、1970年にいわゆるグリーン革命を経験したインドのような、多くの「第3世界の国」で採用されました。これは食糧生産の大きな増加を引き起こし、1970年以降は世界人口を約2倍の37億から67億まで増加させる要因となりました。しかし、飢餓で苦しんでいるほとんどの人々は、変わらずのままでいました。これによって、確かに飢餓の割合は30%から15%まで落ちました。

産業農業が可能なのは、多くの化石燃料を使うときだけです。したがって、この現代の農業方法は、現時点で空気に積み重なっている多くの温室効果ガスをもたらします。この農業方法は同時に、毎年1つの収穫が耕され育てられるために表土が失われて、耕地の広域低下をもたらしました。

地下水資源は、多くの場所で農薬によって減少したか、汚染されました。森林伐採と都市の拡大は、ますます世界的な生態系を危うくし、耕作に適した土地の区域を減少させました。先進諸国で売られる食物はますます加工されて、西洋の食習慣と「ファーストフード・レストラン」は、世界中で広がりました。「ファーストフード・レストラン」は有益な事業で、その最も有名なものにマクドナルドを挙げることができます。マクドナルドは、肉の消費を促進し、先進国の人々の間で肉の消費を増やしました。しかし、それと同時に、これは環境によくありませんでした。

産業農業 vs. 家庭農業

世界の5億2500万人の農民のうち、4億5000万（または85%）は2ヘクタールかそれ以下の面積の農場を持っています。これらの農民は、非常に重要です。なぜならば、彼らは、世界的な人口の大部分の食糧を供給するからです。1人の農民だけによって、現代の産業農場は何百もの牛、または何万もの鶏を飼っているときもあります。

家畜は、人間がよく消費する多くの食物（例えばトウモロコシ、小麦、オート麦と大豆）を餌として与えられます。今日、25%の米国の成長したトウモロコシが、エタノール生産のために使われ、この割合は上がっています。このことは、世界人口が急激に増加している中で、より多くの穀物が必要になることを意味しています。または、動植物の蓄えとしてそのままにすることができた辺境の土地の重圧を増やすことを意味しています。

楽観主義者は、食糧生産が遺伝子が組み替えられた作物や、新しい種類の家畜など、その他の新しい技術によって上がり続けると考えています。それとは逆に悲観論者は、新しい技術が浸透する間にも、人口増加によるひどい食物危機が起こることを予測しました。

最近では、穀物の世界備蓄が数十年で最も低いレベルに減少したために、食料品価格が急騰しました。これは、価格を上げる傾向の始まりと言えるでしょう。

価格の上昇は、裕福な国と発展の最中にある中国などからの増加している要求と同様に、化石燃料の価格上昇によってもたらされます。

オーストリアのような食糧を輸出している国での長い旱魃と、生物学燃料のために収穫物と耕作を利用することは、食糧の供給を制限する更なる要因となります。USDA、EUと世界銀行のような国際機関は、小

小さな家族の農民に対しては小さな関心を払います。彼らは、しばしば小さな農民が生き残ることを困難にするシステムさえを作成することもあります。

飢餓との戦い

ここで、少しだけ簡単にHumana People to Peopleが行う飢餓との戦いに関するプロジェクト「Farmers Club」について紹介します。

このプロジェクトでは、小規模農民の生産高を増やして彼らの生活状況の改善と向上を試みるのが目的です。

<http://www.cicd-volunteerin africa.org/files/Jobdescription%20DI%20Farmers%20Club.pdf> (英語)



Humana People to People のウェブサイトから： ーより高いレベルの農業生産を行うことー

Humana People to People マラウイの活動プロジェクトの1つである Farmers Club は、農民のトレーニングを目標に掲げ、40 台のロープポンプを耕作地に設置し、1,200 人の受益者に豚をローンとして渡すことを約束しました。

マラウイの Farmers Club では、12,000 人の小規模農民をトレーニングします。このトレーニングでは、彼らが自分達の食糧を安定して生産し、余剰作物でビジネスを行うことで、少しでも農民の家族の生活状況を向上するための、専門的な農業生産を始めることを目的としています。

この6ヵ月で、Farmers Club には多くのできごとがありました。農民達は、全ての約束されたものと、必要なトレーニングを受けています。目標とされた60の耕作地が作られ、40台のロープポンプが設置されて耕作地で使用されています。

Humana People to People マラウイの Farmers Club は、チラズルにて、ミクロングウェにある職業訓練校（同じく Humana の活動プロジェクトの1つ）と協力して、ロープポンプの製造を始めました。全ての農民達は種を受け取り、1,200人の農民達は、耕作に必要な基本的な機械を受け取ることができました。1,200人の農民達は、ローンとして豚を受け取りました。この豚は、彼らの養豚場にて飼育され、飼育された子豚は他の農民達に同様の活動を開始するために渡されます。

これは次の世代にも引き継ぐことができる活動です。

また、その他にも 2,075 人の農民達は彼らの耕作地でマルチ（土壌水分の蒸発防止・霜外防止・雑草の抑制などのために、根元の地面に広げるためのわら、木の葉、泥などの混合物）を使っています。1,234 人の農民達は輪作を行い、2,332 人の農民達はすでに堆肥（コンポスト）を準備しました。

農民達はハーブを生産するために、ハーブ・ガーデンを行うことを奨励されました。ハーブは、彼ら自身の免疫システムを高めるのにとっても有効です。ハーブ・ガーデンの設立目標は合計 3,100 で、現在のところ、1,986 がすでに設立されました。

1,800 人の農民達は HIV/AIDS についてのトレーニングを受け、さらに 1,475 人の農民達は、マラリアの予防トレーニングに参加しました。

300 人の農民が衛生のトレーニングをするための対象とされ、今すでに 700 人達成しました。マラウイの Farmers Club は、ゾンバ、チラズルとリロングウェで活動を続けています。このプロジェクトは、アメリカの Planet Aid Inc を通した USDA からの資金提供によって、支えられています。

ほとんどの準備は完了！

こんにちは。私の名前はイステイヴァンです。私は CICD で 2008 年 3 月チームに参加し、現在はアフリカへの派遣を目前に控えています。

私はモザンビーク北部のカボ・デルガドにあるビリビザという小さな村に派遣されます。私はそこで、同じチームメイトであるケイとトモヨ（彼らは日本人のカップル）と、ブラジル人のロドリコと一緒に働きます。私のプロジェクトは、Teacher Training College (TTC. 教員養成学校) という、現地の農村にある小学校の先生を養成するプロジェクトです。私はそこで、英語はもちろん、世界や科学についての授業を行い、イブニング・プログラムとクラブ（音楽、演劇、上映会など）の企画と運営も行います。

また、生徒達やコミュニティの人々のために文化を紹介したりやスポーツなどのイベントの企画と運営も行います。それだけではなく、私は定期的に近辺の幼稚園を訪問して、彼らの教育レベルや職場の状況を向上を試みるため、こられを取り締まる役目も負います。最後にもう 1 つ付け加えると、私は学校のコンピューターのネットワーク管理を手伝ったり、経営や会計問題に関する指導の手助けも行うつもりです。

私達がどのようにプロジェクトのための準備をしたのかについて、少しだけお話ししたいと思います。ガイアコースが終わった私達は、3 月に DI (Development Instructor の略称。ボランティア、学生のこと) プログラムを開始しました。プログラムが開始して以来、私達はとても多くの学習と朝会がありました。学習と朝会では、モザンビークの地理、歴史、政治と経済や、保健衛生と教育、文化と宗教などを中心に学習しました。もちろん、Humana People to People のプロジェクトや、熱帯病（マラリアをはじめとする感染症など）についても大きく取り上げられ、プレゼンテーションや議論などが行われました。また、私達のチームはモザンビーク派遣となるため、公用語であるポルトガル語を学習しなければなりません。これはとてもチャレンジだったと思います。

しかしながら、CICD での生活は学習のほかにもたくさんがあります。実際、学校は生徒達を中心となって運営しています。私達は掃除や料理をしたり、ガーデニングをしなければなりません。これらの



他にも、学生個人には担当の仕事が割り当てられ、割り当てられた仕事を責任をもって行わなければなりません。

例えば、私はフード・ショッピングが担当なので、毎週1回、必ず学校の食材の買出しを行わなければなりません。その他に重要なのが、レクリエーション（娯楽）の企画と運営です。ゲームやカラオケ、映画の上映会を企画・運営したり、スポーツやイギリス国内の小旅行の企画・運営なども生徒が中心になって行います。

月に1度はビルディング・ウィークエンドがあり、この活動ではチームと先生と一緒に建物のペンキを塗り直したり、修復する作業を行います。私達の場合は、ダイニング・ホールと教室をきれいにしあげ、ベンチを作ったりしました。

また、私のチームは、デンマークにある DRH スクールに何週間か滞在して、そこで特別活動や演劇を行いました。特に演劇は2時間にわたるもので、もちろん全て英語で行うので練習や準備が大変でしたが、終わった後の達成感はとても良いものでした。

これらの活動は、私達にチームワークや、イベントを企画・運営することの難しさと大切さ、どのようにチームメイトや先生と協力して1つの活動をつくりあげていくのか…などの、とても多くの実践的なスキルを教えてくださいました。

6ヶ月間のCICDでの事前研修の間、私達はPartnership活動を行うことで自分達のトレーニング費用を補填する必要がありました。Partnership活動では、主に街頭での雑誌販売を行います。この活動はトレーニング費用を補填するだけではなく、同時に多くの人々に私達の活動を通してアフリカとインドの現状を伝えることも目的です。このPartnership活動は街頭での雑誌販売だけではなく、中には運転手の仕事を行う人や、学校の仕事を行う人もいます。

この活動は、確かに精神的な強さが必要になります。しかしまた、あなた自身を強くする活動でもあります。そして、これは私達やあなた達がアフリカに派遣され、プロジェクトで活動するときに必要なものです。

私はすでに自分のPartnership活動を達成したので、現在は自分の学習とポルトガル語の習得に励んでいるところです。

私自身の意見としては、CICDでは、どのように世界中の異なる人々と一緒に協力して、助け合って活動するというを中心に学ぶと思います。他の言語を理解したり、文化や価値観を理解したり…。私達やあなたがこれらを体験することで、自分自身の視野を広げて多くの異なるものを理解しようとすることの大切さを学ぶのだと思います。

私達のチームは、現在はアフリカへの派遣を待つのみです。

アフリカへの準備は万全ですか？

その答えは、「ほとんどは…」です。だけど、私は自分のチームメイトを、仲間を知っています。私は彼らと一緒に、世界をよくするための多くの活動をすることができることを、確信しています。

今はただ、アフリカへの旅立ちの日を待ちながら、私達の結果を見ることを楽しみにしています。

サバイバル・トリップ スコットランドー

7月の最後の週に、私達ガイアチームは、先生と一緒にスコットランドにて

サバイバル・トリップを行いました。場所はブレイマーにある国立公園です。私がそこに訪れた時にまず実感したのは、自分の故郷であるブラジルとの大きな違いでした。私達は川のそばでキャンプを行いましたが、ここにはテントに泊まりたくない人々のために、とても居心地の良いスカウト・ハウスがありました。

旅行は私達にとって、とてもよいものでした。私達は火を熾したり、料理してテントを建てたりなどのチーム作業を行うことができました。20人が一緒に同じ場所に居て働いて、楽しむことができ嬉しかったです。山や川などの美しい景色は、自然と私達を散歩へと誘いました。

テクノロジーや電気さえを使わないこの小旅行は、アフリカやインドに向けてのある意味、良い準備かも知れません。

チームの1人のメンバーは、スカウト・ハウスに宿泊しました。このスカウト・ハウスで眠ることは、中々の面白い経験でした。なぜならば、毎日、異なる人々が訪ねて来て私たちと家を共有するからです。マウンテンバイクで通り過ぎる人々、キャンプの人々や旅行者など、いつも様々な人達と出会えて嬉しかったです。もちろん、CICDでも同じことが言えますけど！



私やチームメイトをを含めた人間には、自然と共に時間を過ごすことは、心身のリフレッシュにとても良いことだと思います。だから、あなたもこのサバイバル・トリップを見逃すべきではありません！

Julian Criscione, Brazil - Gaia Team



**College for International Co-operation and Development
(CICD)**

**@ Winestead Hall, Patrington
Hull, HU12 0NP
England**

Email: cicd05@yahoo.co.jp

Contact Details:

Tel: +44 (0)7813 854 298

+44 (0)1964 631 826

Fax: +44 (0)1964 631 695

Websites:

www.cicdvolunter-japan.org.uk/